

不法投棄発生場所調査

資源循環・廃棄物部会は6月26日(水)に3箇所(水沢区真城、胆沢区若柳、小山)の調査を20人の参加で行いました。

家庭ごみの投棄を目の当たりにし、険しい表情の参加者でしたが、以前活動した場所で環境整備が進んだ様子を確認したときには、活動の成果を喜び合い、「不法投棄しづらい環境づくり」の大切さを実感しました。

部会では、9月下旬に、今回調査した発生場所のごみの撤去を行います。



葛巻町視察研修

環境学習部会と生活環境部会は、7月8日(月)に「環境先進地(葛巻町)視察研修」を実施しました。当日の参加者は40名で、バスが満員になるほど関心の高さがうかがえました。

午前中は、数々の童話や詩を残した宮澤賢治の理想の実現を目指し、2001年、葛巻町の標高700m、12世帯の小さな集落のある森の中に生まれた「森と風のがっこう」を視察しました。創設者である吉成信夫さんから成り立ちを伺うとともに、コンポストトイレ、ロケットストーブ、土のヒートベンチ、食べられる校庭、などを見学させていただいたことにより、身の丈サイズの循環型の生活スタイルで地域に根差した自然エネルギーと農の地産地消を進める「まなび場」の仕組みを勉強することができました。参加者からは「このような『まなび場』を奥州市にも設立できないか」という意見も聞かれました。

葛巻町農林環境エネルギー課の鈴木美知代さんには、風力発電所や木質バイオマスシステムを案内していただき、葛巻町の取組の概要について説明を受けました。葛巻町は、風力発電、太陽光発電、バイオマス等の自然を生かした再生エネルギーを導入して、エネルギー自給率100%の町を目指しています。町をあげて積極的に環境問題に取り組む姿勢に触れ、再生エネルギー利活用の重要性について、多くの会員が再認識させられました。



ハッピーエコライフコーナー

夏の節電対策として注目の「グリーンカーテン」。めぐみネット会員である株式会社ユーテムプレジション東北工場(前沢区)の取組を紹介します。

(取材協力: 製造支援部 小野寺朋美さん)

窓やエアコンの室外機を簾で覆う取組もしています。



ゴーヤとフウセンカズラですが、今年は雨の日が多く生育はいま一つようです。(7月25日撮影)



去年の様子。(同社24年度エコアクション21環境レポートより)



地球規模の異常気象②

特定非営利活動法人 イーハートブ宇宙実践センター 理事長 大江 昌嗣

2. ゲリラ豪雨と激しい雷雲発生

地球温暖化が進めば従来にくらべ、より激しい豪雨が起こるという研究が発表されている。その予測が現実となれば、洪水は激化し、穀物被害が拡大し、マラリアなどの伝染病の蔓延も予想されるという。

研究では、すでに湿潤地域では雨が多くなり、乾燥地域では乾燥がひどくなっていると指摘する。1988～2004年の約20年間に撮影された熱帯海洋の降雨時の衛星画像の分析をもとに、エルニーニョの年には豪雨の回数が増えていることを指摘している。エルニーニョとは、太平洋で海面温度が異常に上昇しその暖流の影響で地球の天候パターンが変化する現象である。

日本の気象関係者からも、この梅雨の期間に起こった各地の豪雨また雷雲の発生は、近海の海水温上昇に原因があるとの発表がなされている。TVニュースでも、この8月頃から海水温の上昇が始まり、現在、日本の北部では例年に比べて4度上昇していることが報じられた通りである。

海水温の上昇は、気温の上昇を促し、結果として上昇気流が激しく起こり、雷雲ができ易くなり、豪雨が生じる。当然、魚の生息海域にも変化が生じる。やはり考えさせられる近頃の空模様と言えよう。

夏の自然観察会～衣川ホテル観察～

自然環境部会は、7月11日（木）に衣川区大森地区において、ホテル観察会を行いました。

当日はガイドに「大森ホテルの会」スタッフをお願いし、ゲンジボタル、ヘイケボタル、ヒメボタルの3種類のホテルを観察することが出来ました。

同観察会は、昨年に続き2回目の開催となりましたが、去年は蒸し暑く雨上がりといった絶好のコンディションだったのに比べ、今年は若干肌寒く、小雨の中での観察となったためか、昨年よりホテルの数は少なかったように感じました。

それでも、他地域ではなかなか見ることが出来なくなったホテルの幻想的な光に、参加者からは驚きの声があがっていました。

陸上自衛隊岩手駐屯地視察

～大規模災害発生時の救援態勢について学ぼう～

生活環境部会は6月21日（金）「陸上自衛隊岩手駐屯地視察」を実施しました。当日は20名が参加し、施設見学や岩手駐屯地における災害派遣体制等について学びました。様々な装備を見たり、隊員と一緒に昼食をいただく等、大変貴重な経験もできました。視察を通して、急な災害から身を守るために、私たち自身も、常に最悪を意識して準備しておくことの必要性を、改めて再確認することができました。



北上川河口域清掃・交流活動

7月13日（土）に被災沿岸市町村支援として、奥州・いわてNPOネット主催の「北上川河口域清掃活動」に参加してきました。当日は、会員5名の参加をいただき、石巻市北上町青ヶ島砂浜、白浜海岸において、清掃作業を行ってきました。

鍋帽子®講座

環境学習部会では、7月23日（火）にママにも地球環境にも優しく調理時間もエネルギーも節約につながる鍋帽子®を製作する講座へ講師派遣を行いました。第1回目は皮縫いを実施し、次の第2回目で綿入れを行って完成となります。完成後の作品を使った料理教室も楽しみです。

※「鍋帽子®」は、公益財団法人 全国友の会振興財団の商標登録です。





④低線量内部被曝の人体被害のまとめ

放射線による人体の分子や遺伝子切断のしくみ(直接・間接作用、バイスタンダー効果、ペトカウ効果等)や、その例として世界と日本の事実を見てきました。これらを通して、高線量下はもちろんですが、低線量でもそこに長く暮らし続ける被害の甚大さです。これらは、2011年4月6日、チェルノブイリ事故25周年国際会議の論文で、更に明らかになります。全先天障害患者や無脳児、多指症、ダウン症、多重先天障害、先天障害を伴った子どもと死産児の数が、高濃度、低濃度汚染地域ともに、事故前の2～3倍になっているのです。また、甲状腺ガンの急増、1型糖尿病や白内障、心疾患の増加もしかりです。

これらの教訓は、2011年12月19日、国の除染重点調査地域に指定された奥州市、平泉町、一関市に暮らす私達にとっては、大切な指摘でしょう。

でも、2012年4月から、500ベクレルあった野菜、肉、卵、魚等の暫定基準値は100ベクレルに、牛乳、乳製品は200ベクレルから50ベクレルに、飲料水は200ベクレルから10ベクレルになりました。厳しい基準値になり、これ以上は売れなくなったから大丈夫でしょうか？

日本では、事故後「ただちに健康に影響のあるレベルではない」といった報道が流されているとき、外国はすばやい対応をしていたのをご存知でしょう。フランス政府は「ただちに日本から離れなさい。できない人は関西に」とチャーター機を何機も調達。ドイツは、2011年3月20日、ドイツ放射線防護協会の長い声明文で「サラダ菜、葉物野菜、山菜の摂取を断念する。乳児、子ども、青少年は1kgあたり4ベクレル以上、成人は8ベクレル以上のセシウム137を与えないように」と勧告していたのです。

ベクレルとは何のことでしょう。「ベクレル」は、「放射線の強さ」の単位です。1秒・1発・1ベクレルと覚えてください。もし5ベクレルのものを食べたとしましょう。1秒間に5発の放射線が出て、セシウムがバリウムに変わります。

1秒 1発 1ベクレル
5ベクレルを食べたとすると
1秒 5発 5ベクレル
1分間では、300発 (5発×60秒)
1時間では、18,000発 (300発×60分)
1日では、432,000発 (18,000発×24時間)

セシウムは体内に、
0～1歳 9日、2～9歳 38日、
10～30歳 70日、31～50歳 90日、
51歳～ 100日

乳児は 3,888,000 発、幼児・小学校低学年は
16,416,000 発あびることになる。

左図のように、1時間では18,000発、1日では432,000発の放射線を体内であびます。乳児は9日間体内にとどまるので388,000発、幼児・小学校低学年は16,416,000発あびることになります。

ドイツは、これらの害があるため、日本に勧告して下さっていたのです。しかも、店で売っているものは、全部ベクレルを測定しているわけではありません。日本の基準値も、もっと厳しく見直しながら、それを超えてしまった農産物や肉、魚は、きちんと補償していくことを求める運動も併せて行っていきましょう。

会員紹介

会員No.事-20/自然部会所属 『奥州地方森林組合』代表理事組合長 小原 剛一郎

平成25年1月4日に、水沢地方森林組合と江刺市森林組合が合併し、奥州地方森林組合が発足しました。現在、本所が江刺区(旧江刺市森林組合)にあり、水沢事業センターが衣川区(旧水沢地方森林組合)にあります。組合員数5,308人で県内の森林組合では最大です。所有森林面積は28,321haで県内10位、職員11名と臨時職員3名で、胆江地方の林業に関する事業に日夜奮闘しています。特に平成24年度から健全な森林を長期的な観点から計画的に維持・育成していくためスタートしました「森林経営計画」においては、組合員の皆様に特段のご協力をいただき進めているところです。

未来ある子ども達に、手入れの行き届いた豊かな森林を残し、環境の良い自然のなかでの健やかな成長を願い、地域の林業発展のため職員一丸となって努力してまいります。

(総務課 高橋厚子さん)





スモーカーズ・フェイス(タバコ顔)とは? その②

前回からの続きです。「スモーカーズ・フェイス」の具体例を、一つだけ挙げましょう。ここで誰もが知るかの女優・オードリー・ヘップバーンさんに登場してもらいます。

1960年代、映画の中の彼女の天使のような優美な姿に見とれた人は多いでしょう。「ティファニーで朝食を」で煙管を手にした彼女(下の写真左)は、とってもチャーミングですね。しかし人生は、というか、「タバコ」は冷酷無情です。

一説によると、彼女が喫煙しだしたのは映画の役づくりのためだったといえます。しかしやがて一日3箱も喫うヘビースモーカーとなり、ついには62歳の若さで大腸がんで亡くなってしまいます。愛好の銘柄はKENTだったそうです。

右の3枚の写真は、彼女の容姿の変化を順を追って見たものですが、なんだかほら、ぴちぴちギャルが次第次第にスモーカーズ・フェイスに変貌するのがわかりますね。



32歳(喫いだして間もない頃)



50歳頃(既にヘビースモーカー)



60歳頃(亡くなる数年前)

さてこれだけを見ると、「みんな歳をとればこうなって当たり前さ」と言われかねません。ですからここで比較のために、同じ女優で、オードリーが亡くなった歳とちょうど同じ頃の吉永小百合さんの姿も掲げておきましょう。・・・違いは明らかですね！

さてあなた、ここであえて喫煙者の男性であるあなたに問いかけますよ。日々あなたの吐く煙が、あなたのご家族をスモーカーズ・フェイスにしていたことに、気づいていましたか?



吉永小百合
62歳(2007年)



世界の禁煙CM

オーストラリア

おまけにきれいに見えない

最後にスモーカーズ・フェイスの特徴をまとめると、だいたい次のようになります。

なんと言っても、スモーカーは、皮膚の色が黒ずみ、荒れ、老化が進行する(表現は悪いですがゾンビ的な肌になる)傾向があります。更に目じりや口回り、歯や歯茎、口からのタバコ臭などが特徴です。

さて、こうした観点で、実際に周りの人たちを観察してみてもいいかもしれません。ちょっと慣れれば、ひと目で相手が喫煙者かどうか、特にヘビースモーカーなんかは、ほぼ正確に当てることができるようになりますよ。スモーカーズ・フェイスは喫煙者の身元証明のようなものなのです。

生活環境部会より(文責:建部 信)

おうしゅう環境フォーラム2013

いのち育む『水』

焼石から胆沢へ、そして私たちへ

- ・いさわジュニアミュージカルとめぐみネットが夢の共演!
- ・郷土芸能や紙芝居、ぬか釜の展示・実演など、胆沢ならではの企画が目白押し!
- ・今年も「エコ・アイデア」を募集します

日時:平成25年11月30日(土) 10:00~

会場:胆沢文化創造センター 小ホールほか

◇ つぶや記・あとなが記 ◇

ストレスが溜まりっぱなし!地震・津波が起因の原子力発電所の事故、放射能(線)の発生。除染、農作物の安全性の検査、山菜・川魚は食べないこと等々、今までの生活が一変した。子供・若者男女に対する影響も心配。放射能(線)の対策を指導する関係者も初めてで、何をすることも雲を掴む様なことです。最近放射能(線)についてあまり話がないようですが、忘れたふりをしてはだめです。食べる物、食べさせる物が、安全なものに早くなること。願うだけ... 編集委員 及川堅一

事務局 奥州市水沢区大手町一丁目1番地 奥州市役所市民環境部生活環境課内

電話 0197-24-2111 / ファックス 0197-51-2374 / メール seikatsu@city.oshu.iwate.jp

ホームページ <http://www.city.oshu.iwate.jp/htm/kankyau/meguminet.html>

